

# ふるさと応援団木島平会会報

## いくなか交流フェスタ 盛大に開催!!

10月10日、東京都調布市グリーンホールで「木島平いくなか交流フェスタ in 調布」が開催されました。木島平村と調布市の姉妹都市盟約15周年を機に始まったこのフェスタも10回目を数え、来年は姉妹都市盟約25周年の記念の年となります。

今年、村出身の民謡舞踊家である「高柳流宗家・高柳宝仙」先生をはじめとする民謡舞踊と鬼島太鼓の演奏が行われました。当日は、調布市内外から約650人が来場され、民謡の華やかな舞台と鬼島太鼓の迫力ある演奏に会場が包み込まれました。また、最後には恒例のお楽しみ抽選会が行われホテルの宿泊券や新米コシヒカリなどの抽選もあつて会場内は大いに盛り上がりました。

今後、姉妹都市の調布市をはじめとする都市と田舎との交流を深めながら「良い仲・いいなか・いくなか」をキーワードに交流人口の拡大を図っていききたいと思えます。



▲体調不良により欠席された高柳宝仙先生に替わって高柳流家元の高柳仙華先生を中心とする華やかな民謡舞踊



▲調布市ではお馴染みの鬼島太鼓

## ☆区民の声☆ 元気な活動や自慢、今後の展望を紹介

### 南鴨区

地区のテーマ 地域で育む (将来像) 夢の里・愛の里・ロマンの里 南鴨

南鴨区は、江戸時代初期に集落が形成された区で、現在129世帯、465人、村の中では大きな集落です。区では「伝統文化を活かした活力ある協働型参画型の地域づくり」をモットーに「柱松子」や、「秋の神楽奉納」を行なっているほか、大塚山・平塚山・小塚山など貴重な自然もあります。これらの伝統行事や自然を活かした取り組みとして、大塚山に遊歩道やあずまの設置、桜の植樹を行い、身近な自然とふれあえる区民の休息の場とするほか、「柱松子」の前夜には、北信地方唯一の「二尺玉火花」を打ち上げ、村内外から多くの皆さんが訪れる前夜祭として、盛り上がりを見せています。

また、地域の仲間作りも活発で、夜間ソフトボール仲間の「中年会」、大塚山と小塚山を鯉のぼりで結ぶ「鯉の会」、そば好きな仲間「そばの会」などは男女問わず幅広い年齢層が参加し、「仲間づくりは地域づくり」を掲げて活動しています。

近年、少子高齢化が進み、伝統行事の存続危機など後継者不足は深刻ですが、「地域の子ども」は地域で育てる、「地域のお年よりは地域で面倒をみる」を合言葉に、緊密なコミュニティづくりとボランティア活動を中心とした地域づくりに努めていきます。



▲古い修験道の形を今に伝える南鴨の「柱松子」

### 子どもの頃の思い出

高橋邦子 (部谷沢出身)

子どもの頃の思い出は数限りなくあります。

雪の降り積もった朝は、3人程の当番制でかんじきを付け、中島まで道をつけるのです。通学の子どもが通るのが始めて、子どもは長靴はブーツと雪の中へ減り込むので子ども心に朝は辛かった。人が通った後は堅く踏みしめられ楽でした。雪が降り積もり、雨が降った翌朝は「凍み渡り」をし、田んぼの中を突っ切って学校へ通ったものです。

部谷沢は現在、「蛍の乱舞する里づくり」に取り組んでいます。農道、畦道などに除草剤をかけないようにしていると聞きました。私の子どもの頃はビンに蛍草を入れ、ほうき草のほうきを持ち、夕方近所の子と蛍を取りに行ったものです。楽しかった思い出です。

ふるさと木島平は四季が豊かであり、冬は厳しいそんな環境の中で、頑張りやで正直な人には優しくできる性格、今在る根っこ部分が育まれたのではないかと自負しています。

### 【写真】

私が12歳の頃(昭和36年頃)に部谷沢のお宮の鳥居より田を見下ろし撮ったもの。

雪がまだ残っており、その頃は小さな田がぎっしり並んでいました。



### 木島平村の思い出

小林伸子

木島平村について質問されると、私はいつも「四季がはっきりしていて、それぞれが美しい所です。」と答えます。

冬に雪が降り始めた頃は、とても嬉しくて野山が白色に染まるのは楽しいものでした。凍み渡りなどは村でしか味わえないもので、厳寒の朝は雪の上をどこまでも歩いたものでした。しかし、長い雪の生活が続くと、すっかり飽きてしまい3月になると土が見たくなり、雪を掘ってみましたが、見えた土はまだ堅く冷たいものでした。

そんな寒さも少しずつ薄らいできて、いつの間にか山々に少しの雪を残すだけになった頃、道を雪解け水がチョロチョロと流れ、土の香りがし、春の草花が目を引き、農作業も始まります。田に緑の稲が並び、一面に育っていくうちに、暑い夏がやってきます。日中は盆地特有の暑さにまいったものでした。

夏休みが終わると秋の気配がして、何か淋しい気持ちになったものです。稲刈りが終わると、田を焼く煙が夕暮れ時に流れ、柿の実が赤く色づき、絵のような風景が見られます。霜が降りる頃、霜柱や凍った水たまりをわざわざ踏んで登校しました。そしてまた、雪のための雪囲いをして冬に備えるのです。

私は、村を出て40年近くになりますが、思い出すのは四季折々の風景です。今年も夏に帰省しましたが、木島田んぼを過ぎると教科書に出てくる様な扇状地が見え、村の方々が丹精込めて管理されているフラワーロードの赤い色を見ながら帰って来たという思いがしました。

自然の美しさは、外から見ると、とても貴重なものです。これからも村の特色として活かして頂きたいと思えます。

